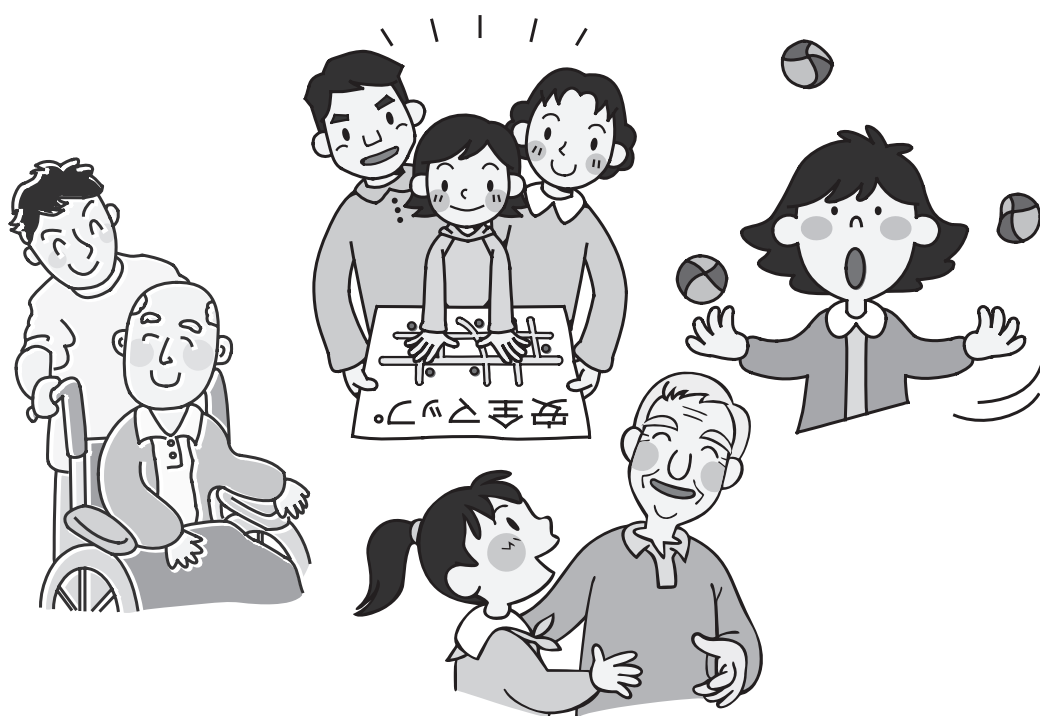


平成28年度 福祉教育協力学区指定事業活動報告書

地域社会・学校・家庭の協働
— 子どものときから福祉の目を —



社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

発刊にあたって



福祉教育協力学区指定事業は、平成17年度まで実施した「児童・生徒のボランティア活動普及事業」を発展させて平成18年度から新たに始まった事業で、今年度

で10年目を迎えました。

この事業は、「児童・生徒のボランティア活動普及事業」において、学校中心に行われていた福祉教育から、学校を含めた地域社会や家庭が協働して、子どものときからボランティア活動等を通して社会福祉への理解と関心を高め、助け合い活動を育む福祉教育を推進していくことを目的に実施しています。

本事業は、市町村社会福祉協議会を指定し、小学校区または中学校区を単位として、それぞれの地域性を活かしながら地域一体となった福祉教育の活動に取り組んでおります。

今年度は、平成26年度に指定した水戸市と桜川市の社会福祉協議会が本年度で指定期間の3年間を終了することから、これまでの福祉教育に対する取り組みをまとめ、広く周知するために、この報告書を発刊することとしました。

この報告書が今後、各地域で取り組まれる福祉教育活動の一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたりご協力いただきました水戸市並びに桜川市社会福祉協議会担当者、学校の先生方、地区役員の皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
会 長 関 正 夫

目 次

□ 発刊にあたって	1
□ 目次	2
□ 福祉教育協力学区指定事業実施要項	3 ～ 4
□ 活動報告（平成 2 6 年度指定社協）	
・ 水戸市社会福祉協議会	5 ～ 2 0
・ 桜川市社会福祉協議会	2 1 ～ 3 4

福祉教育協力学区指定事業実施要項

1 目的

地域社会・学校・家庭が協働して、子どものときから社会福祉への理解と関心を高め、助け合い活動を育む福祉教育を推進することを目的とする。

2 実施主体

市町村社会福祉協議会（以下、「市町村社協」という）とする。

3 地域の指定

茨城県社会福祉協議会（以下、「茨城県社協」という）から指定を受けた市町村社協が、小学校区や中学校区など特定の区域を指定する。

4 指定期間

地域の指定は、3ヵ年とする。

5 指定地域が実施する事業

（1）必須事業

- ① 指定当初に、福祉教育推進協議会（以下、「協議会」という）を設置する。
なお、協議会の名称は、指定を受けた市町村社協において決定する。
- ② 指定1年目に「ぼうさい探検隊」を実施し、子どもたちが地域の福祉・生活課題に気づき、地域が主体的に課題を解決しようとする意識づけを行う。

（2）選択事業

指定区域内の小・中学校及び高等学校と連携して、次の事業を選択して行う。

- ① ボランティアスクール、福祉体験講座などの啓発活動
- ② 福祉マップづくりなど、地域の点検・調査活動
- ③ 地域社会で生活する高齢者や障がい者等に対するボランティア活動
- ④ 社会福祉施設への訪問、ボランティア活動
- ⑤ 学校における「総合的学習の時間」等との連携事業
- ⑥ 小・中学校及び高等学校を通じた系統的な学習
- ⑦ 未使用教室の活用事業
- ⑧ 家庭、地域社会への広報活動
- ⑨ 指定地域内の相互交流・学習等
- ⑩ 地域内の複数の関係機関・団体との協働活動
- ⑪ その他、目的達成のため、協議会が必要と認める事業

6 協議会

- （1）協議会のメンバーは、市町村社協と福祉教育に関係する機関・団体等から選出する。なお、メンバーは、実施事業や地域の実情を十分考慮し、構成例示を参照して選任する。

【構成例示】

教育委員会、学校、児童館、公民館、学童保育、社会福祉施設、福祉団体、民生委員・児童委員、ボランティア、PTA、子ども会育成会、自治会・町内会、企業、商店会、福祉関係行政等

(2) 協議会の役割

① 地域内の福祉・生活課題を把握し、課題に対応する選択事業の企画と実施を行う。

② 地区住民の事業への参加を促進する。

7 茨城県社協及び市町村社協の役割

(1) 茨城県社協から指定を受けた市町村社協は、協議会を設置する。

(2) 茨城県社協及び市町村社協は、次の事項に連携して取り組み、本事業を円滑に推進する。

① 講座・体験等の講師、助言者の斡旋及び派遣

② 関係機関等との連絡調整

③ 事業・活動に必要な資機材の提供

④ 関係資料の作成及び情報の提供

⑤ 指定地域内の相互交流

⑥ その他、目的達成のために必要な事項

(3) 茨城県社協は指定事業の実施経費として、予算の範囲内において、実施市町村社協に助成する。

指定市町村社会福祉協議会

期	指定期間（年度）	市 町 村 社 協 名
第1期	平成18～20年	水戸市 城里町 結城市
第2期	平成19～21年	笠間市 北茨城市 牛久市 利根町
第3期	平成20～22年	茨城町 八千代町
第4期	平成21～23年	大子町 五霞町 美浦村
第5期	平成22～24年	行方市 小美玉市 坂東市
第6期	平成23～25年	東日本大震災のため実施なし
第7期	平成24～26年	茨城町
第8期	平成25～27年	坂東市 城里町
第9期	平成26～28年	水戸市 桜川市

地域との連携による福祉教育

－福祉教育協力学区指定事業の成果－

水戸市国田地区福祉教育推進協議会



国田義務教育学校・校舎風景



愛称名



地域の文化活動拠点「国田市民センター」

社会福祉法人 水戸市社会福祉協議会

1. 活動の目標

学校と地域社会が連携して、社会福祉に関する協働事業を実施することにより、子供たちが地域の課題や社会福祉に関する理解や考え方について学ぶ福祉教育を推進する。

2. 福祉教育推進協議会の組織

(1) 国田地区自治実践会役員

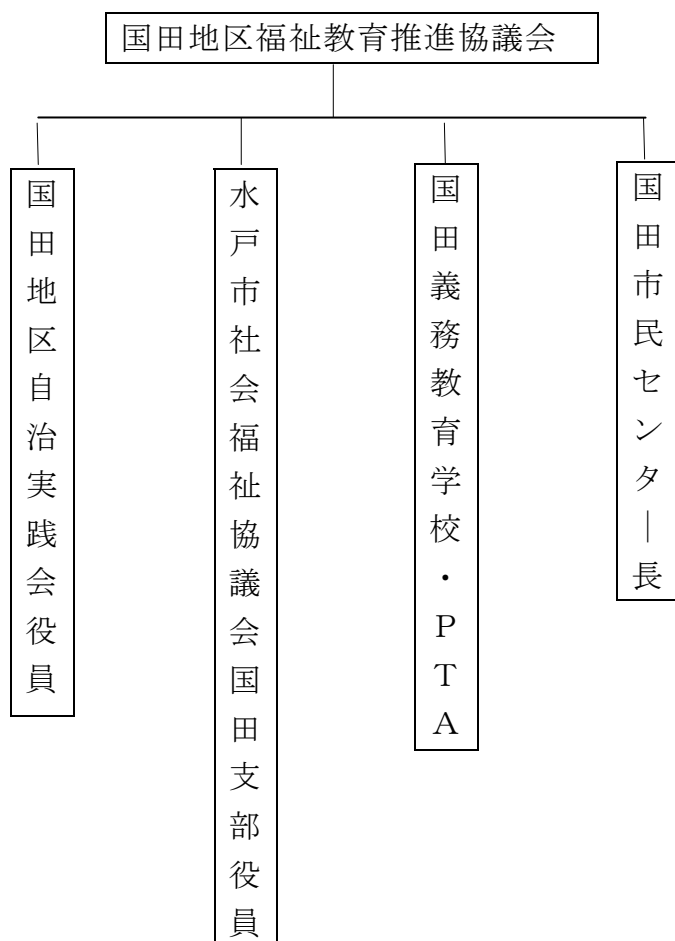
区長 3 名・自治会長 9 名・民生委員 2 名・各部課長 13 名（地域振興部長、福祉厚生部長、スポレク部長、生涯学習部長、防災防犯部長、広報部長、総務部長・副部長、会計部長、農業振興課長、道路整備課長）・市民センター長 1 名

(2) 水戸市社会福祉協議会国田支部役員

上記併任 28 名・主任児童委員 1 名

(3) 学校関係

学校長 1 名・教頭 1 名・教務主任 1 名・PTA 会長 1 名・健全育成委員長 1 名・校外生活委員長 1 名



3. 実践活動の内容

◆ 1 年次（平成 26 年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会の設置	平成 26 年 12 月 9 日、第 1 回国田地区福祉教育推進協議会において、「国田地区福祉教育推進協議会」が発足。 構成員は、国田地区自治実践会役員・水戸市社会福祉協議会国田支部役員・学校・P T A 等、会長 1 名、副会長 3 名。委員 31 名で構成。
ぼうさい探検隊の実施	平成 26 年 10 月 18 日、国田小中学校生と、保護者、P T A、教師、実践会役員等により「平成 26 年度国田小中学校通学路安全マップ」の見直し作業を実施。 地図マップデータによる福祉マップづくりの素案の検討。
（選択事業） ⑤学校における「総合学習の時間」等との連携事業	1. 国田地区・三の丸地区地域協働事業（田植え）の実施 (5/19) 2. 国田地区・三の丸地区地域協働事業（サツマ苗植え） (6/1) 3. 国田地区・三の丸地区地域協働事業（サツマ掘り）の実施 (11/11) 4. ふれあい食事会の開催（独居高齢者・幼稚園・地域） (11/14) 5. 国田地区・三の丸地区地域協働事業（収穫祭）の実施 (12/4) 6. 学校炊き出し訓練の実施 (12/12) ※インフルエンザ 学級閉鎖のため中止 7. 認知症サポーター養成講座の実施（学校・保護者・地域） (12/18) 8. 上国井町「茨城県農業研究所」桜植樹式参加 【学校地域貢献事業】 (3/5)
⑩地域内の複数の関係機関・団体との協働活動	1. セツ洞公園ホテル観察会の実施【国田小中・三の丸小・両地域】 (6/14) 2. 第 8 回国田夏祭りの実施 (8/10) ※台風のため中止 3. 国田地区市民運動会の実施（学校・地域・生徒） (10/12) 4. 社会環境浄化活動の実施（地域・学校・生徒） (11/30)

◆ 2 年次（平成 27 年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会	・ 第 1 回国田地区福祉教育推進協議会の開催 (H27 年 5 月 12 日)
(選択事業) ⑤学校における「総合学習の時間」等との連携事業	1. セツ洞フォトコンテスト募集開始「学校・地域」 (国田中学校からコンテスト募集のポスター18 作品を市内各市民センターに掲示) (5 月：募集期間：5 月～11 月) 2. 国田地区・三の丸地区地域協働事業「田植え」の実施 (5/18) 3. 国田地区・三の丸地区地域協働事業「サツマ苗植え」 (5/31) 4. 子供を見守る安全協力員活動の実施「地域・学校」 (6/29) 5. セツ洞公園「秘密の花苑」のボランティア活動に「水戸イングリッシュガーデニングクラブ」とともに参加 (5/13、5/15、9/16、10/21、11/18) 6. 地域の指導による伝統芸能の総合学習「3 年：和太鼓 5・6・7・9・10 月(10 回) 4 年：田谷棒術 5・6・9・10 月(11 回)」 7. 国田地区・三の丸地区地域協働事業「稲刈り」の実施 (9/28) 8. 国田小中学校「翔螢祭」で小学 3 年生の和太鼓発表 (10/30) 9. 国田地区・三の丸地区地域協働事業[サツマ掘り]実施 (11/11) 10. ふれあい食事会「独居高齢者・幼稚園・地域」 (11/12) 11. 国田地区・三の丸地区地域協働事業（収穫祭）で餅つき、そばうち体験の実施「幼稚園・小中学校・三の丸小・国田地区・三の丸地区」 (12/7) 12. 生涯学習フェスティバルの実施「幼稚園、小中学校生徒作品展示・小学 3 年生の和太鼓発表・セツ洞公園フォトコンテスト応募作品の表彰式開催」 (2/7)
⑩地域内の複数の関係機関・団体との協働活動	1. セツ洞公園ホテル観察会の実施（国田小中・三の丸小・両地区の地域友好交流事業） (6/13) 2. 水戸黄門祭りの東照宮山車引きに参加「三の丸地区との友好交流事業として国田小・保護者 21 名」 (8/8) 3. 第 9 回国田夏祭り参加 「小学 3 年生 22 名：和太鼓演奏発表」 (8/9) 4. 国田地区「敬老会」への支援活動（地域・学校） (9/27) 5. 国田地区市民運動会の実施（学校・地域・児童・生徒）(10/11) ※雨天のため体育館で実施 6. 国田地区防災訓練として救急救命訓練・給水訓練・煙体験・消火訓練の実施「幼稚園・小中学校・地域・地域各団体」 (10/17) 7. 社会環境浄化活動で地域のゴミ拾いの実施「幼稚園・小中学校・地域」 (11/29)

◆ 3 年次（平成 2 8 年度）

実施事業名	内 容
福祉教育推進協議会	・ 第 1 回国田地区福祉教育推進協議会の開催（H28 年 4 月 12 日） ・ 第 2 回国田地区福祉教育推進協議会の開催（H29 年 3 月 12 日）
（選択事業） ⑤学校における「総合学習の時間」等との連携事業	1. 第 2 回七ツ洞フォトコンテスト募集開始「学校・地域」 (募集期間：5 月～11 月) 2. 国田地区・三の丸地区地域協働事業「田植え」の実施（5/20） 3. 国田地区・三の丸地区地域協働事業「サツマ苗植え」（6/5） 4. 七ツ洞公園「秘密の花苑^{はなぞの}」のボランティア活動に「水戸イングリッシュガーデンクラブ」とともに参加 (5/18、6/15、10/19) 5. 地域の指導による伝統芸能の総合学習 「小学 3 年生：和太鼓 5・6・7・9・10 月の計 15 回」 「小学 4 年生：田谷棒術 5・6・9・10 月の計 10 回」 6. 国田義務教育学校「翔螢祭^{しょうけいさい}」で 3 年生の和太鼓発表（10/29） 7. 国田地区・三の丸地区地域協働事業「サツマ掘り」実施 (11/9) 8. ふれあい食事会「独居高齢者・幼稚園・地域」(11/11) 9. 国田地区・三の丸地区地域協働事業（収穫祭）で餅つき、そばうち体験の実施（幼稚園・義務教育学校・三の丸小・国田地区・三の丸地区） (12/6) 10. 生涯学習フェスティバルの実施「幼稚園、義務教育学校生徒作品展示・3 年生の和太鼓発表・七ツ洞公園フォトコンテスト応募作品の表彰式開催」 (2/5)
⑩地域内の複数の関係機関・団体との協働活動	1. 七ツ洞公園ホテル観察会の実施（国田義務教育学校・三の丸小・両地区の地域友好交流事業） (6/11) 2. 水戸黄門祭りの東照宮山車引きに参加（三の丸地区との友好交流事業として国田小 15 名・保護者 6 名） (8/6) 3. 第 10 回国田夏祭り参加（国田義務教育学校 3 年生 15 名和太鼓演奏発表）（8 月 7 日） 4. 国田地区「敬老会」への支援活動（地域・学校） (9/25) 5. 国田地区市民運動会の実施（学校・地域・児童・生徒） (10/9：雨天のため体育館で実施) 6. 社会環境浄化活動で地域のゴミ拾いの実施 「幼稚園・義務教育学校・地域」 (11/27)

4. 主な活動事例報告

◆必須事業

ぼうさい探検隊（通学路安全マップづくり）（平成26・27・28年度）

年度当初に、学校・生徒・保護者・地域が協力して各地区の通学路の安全をチェックするため、10コースに分かれて実際の通学路を歩いて、交通安全性・樹木繁茂・横断歩道・歩道の歩きやすさ等の点検を実施し、点検終了ご拓販の報告会を開催、最終的に通学路安全マップとして各保護者等に配布した。

また、平成27年度に国田地区防災マニュアルの策定に伴い、防災マップを作成し、水害や地震時の危険度や避難関係について検討を行った。



各班に分かれて歩いて通学路の点検



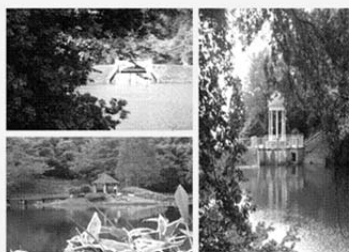
点検結果を基に通学路安全マップの作成

◆選択事業

(1) セツ洞フォトコンテストの実施（平成27・28年度）

セツ洞フォトコンテスト開催

セツ洞公園は国田にあるイギリス式庭園をイメージした公園です。1年中自然豊かで夏にはホテルも見られます。また、季節に合った行事もたくさんあります。是非参加してみてくださいませんか？



＜応募要項＞

- ・応募サイズ：A4
 - ・応募方法：国田市民センターへ持参・郵送
 - ・応募期間：平成27年11月末必着
- また応募する際は、作品タイトル及び、住所・氏名・年齢・連絡先を作品に添付してください。

国田市民センター
〒311-4205
水戸市下国井町1212-4
「セツ洞フォトコンテスト係」まで
問合せ先029-239-7105

四季を通じた地元のセツ洞公園の写真コンテストを学校と地域が協働で実施し、公園の環境美化の推進と地元の公共財の大切さ、さらには郷土愛をはぐくむ福祉教育を実施する。

中学生作成の募集ポスターの1枚

(2) 国田地区・三の丸地区地域協働事業の推進（平成26・27・28年度）

(a) 田植え作業の実施



収穫祭で使用するもち米を植えます

(b) サツマ苗植え作業の実施



サツマ苗は紅はるかを使用します

(c) 稲刈り作業の実施



(d) サツマ掘りの実施



(e) 収穫祭の実施



ソバ打ちの体験コーナー



稲刈りで収穫したもち米でもちつき



イモ掘りのサツマを使用

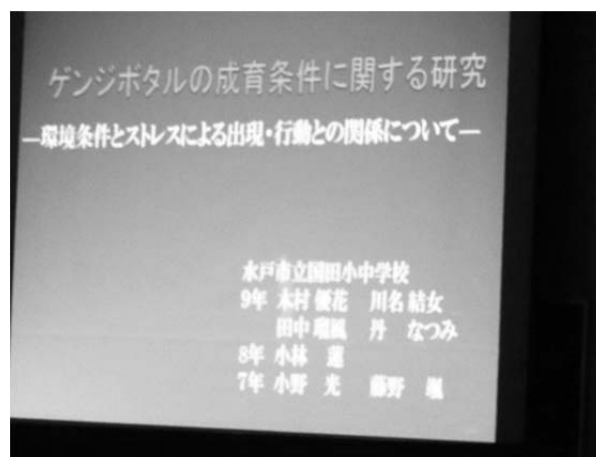


きなこ餅・おそば・ふかしサツマでの昼食会

(3) 七ツ洞公園ホテル観察会の実施（三の丸地区地域友好交流事業）
（平成26・27・28年度）



ホテル観察会の開会式



国田中・生物研究部のホテルの研究発表

(4) 七ツ洞公園「秘密の花苑」のボランティア作業の参加（地域貢献事業）
（平成27・28年度）



ボランティアグループの「水戸イングリッシュガーデンクラブ」の作業のお手伝い

(5) 地域の指導による伝統芸能の総合学習の実施（平成27・28年度）

小学3年生を対象に、5月から10月までの間（夏休みを除く）約月2回50分間の練習を実施。



地元の「国田太鼓」のメンバーによる太鼓実習



田谷棒術の実習

(6) 三の丸地区との友好交流事業・水戸黄門祭り東照宮山車引き参加（平成27・28年度）



出発前に三の丸市民センター前で

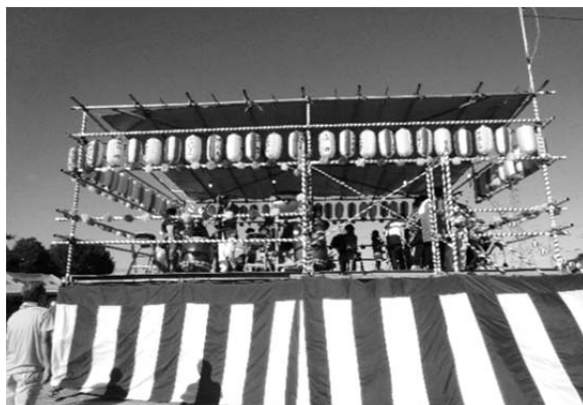


東照宮の山車を三の丸小の子供と共同で引く

(7) 国田夏祭りへの参加（平成27・28年度）



演奏曲「夏祭り」の練習成果の発表



「国田太鼓」の皆さんと盆踊り太鼓を演奏

(8) 国田地区市民運動会への参加（平成26・27・28年度）



生徒・地域各団体による「百足競争」



平成27年度は雨天のため体育館で行いました

(9) 子供を見守る安全協力員の活動（平成26・27・28年度）



小学生の下校に合わせ見守り活動を実施



一番遠い子供の家まで送ります

(10) 社会環境浄化活動の実施（平成26・27・28年度）



各コースに分かれてゴミ拾い



終了後市民センターでおにぎりや豚汁で昼食

(11) 生涯学習フェスティバルへの参加（平成26・27・28年度）



小学3年生の和太鼓演奏発表
(H27 三の丸地区友好交流事業10周年記念)



学校生徒作品の展示

(12) 国田地区防災訓練の参加（平成27年度）（地域・学校・各団体協同）



応急救命訓練の実施



消火訓練の実施

(13) ふれあい食事会への参加（平成26・27・28年度）



肩たたきの音楽に合わせて



ダンスの発表

(14) 地域貢献事業の実施：茨城県農業研究所の桜苗植樹参加（平成26年度）



桜苗の植樹作業



地域と学校による記念事業

(15) 認知症講座の開催(平成26年度)



学校生徒と地域の参加により、寸劇により認知症を学ぶ



(16) 敬老会式典のお手伝い(平成26・27・28年度)



ボランティア系の生徒の紹介



お年寄りへのお祝いの言葉と花束贈呈

(17) 翔螢祭^{しょうけいさい}での和太鼓発表（平成27・28年度）（小学3年生）



スローガンは、「国田の伝統を広めよう」



保護者、地域の人々の前で演奏

5. 選択事業等の実施に伴う成果等について

- (1) 学校と地域との協働事業を進めることにより、従来にまして地域の中の学校として、生徒も地域の一員であるという自覚がなお一層促進された。
- (2) 生徒が地域貢献事業について積極的に提案し、進んで実施しようとする自覚が大きく芽生えた。
- (3) 学校と地域との交流が一層すすみ、地域の人やお年寄りとの関わりを福祉の心をもって接する機運がなお一層促進された。

6. 福祉体験・学習活動をとおした感想について

- (1) 地域の指導による「総合学習の時間」との連携事業に関する感想文
「和太鼓の練習」国田義務教育学校3年 和田 翔太
- (2) 「総合学習の時間」における地域協働事業・地域交流事業に関する感想文
「田植え・収穫祭を通して」国田義務教育学校6年 高安 好伸

朝夕令え返る季節になりましたが、お元気にお過ごしでしょうか。国田義務教育学校三年和田翔太です。
5月間太鼓を教えたいただきありがとうございます。
先生方のいろいろなものと太鼓のたたき方がまん中に
うてるようになりせいや用具の使い方がなれ
ました。夏又示としようけいさいではみんないまが合いと
てもおそれなえんそうができました。全部先生方
のおかげです。先生方に会えて太鼓まで教えてい
ただきありがとうございます。とても良い思い出にな
りました。

年末は何かと忙しいでしょうが、体だけは気をつけて
元張ってください。

十月十七

和田
翔太

			田	植	え	・	収	穫	祭	を	通	し	て						
			国	田	義	務	教	育	学	校		六	年		高	安		好	伸
	僕	た	ち	は	・	自	治	実	践	会	に	協	力	を	い	た	だ	き	な
が	ら	・	田	植	え	や	収	穫	祭	な	ど	で	三	の	丸	小	学	校	と
交	流	を	深	め	て	い	ま	す	。										
	こ	の	交	流	を	通	し	て	・	僕	は	コ	ミ	ュ	ニ	ケ	ー	シ	ヨ
ン	の	大	切	さ	を	学	び	ま	し	た	。	田	植	え	で	は	・	最	初
は	緊	張	し	て	・	な	か	な	か	話	す	こ	と	が	で	き	な	か	っ
た	け	れ	ど	・	6	年	生	と	し	て	自	分	か	ら	積	極	的	に	話
し	か	け	る	よ	う	に	し	ま	し	た	。	会	話	を	増	や	し	て	い
く	こ	と	で	自	然	と	仲	良	く	な	れ	・	そ	の	子	と	一	緒	に
い	る	時	間	も	長	く	な	り	ま	し	た	。							
	収	穫	祭	で	は	・	地	域	の	方	に	教	わ	り	な	が	ら	そ	ば
打	ち	を	し	ま	し	た	。	す	ご	く	て	い	ね	い	に	教	え	て	く
だ	さ	り	・	楽	し	く	行	う	こ	と	が	で	き	ま	し	た	。	で	き
あ	が	っ	た	そ	ば	は	と	て	も	お	い	し	か	っ	た	で	す	。	
	地	域	の	方	た	ち	に	は	・	こ	の	ほ	か	に	も	た	く	さ	ん
の	行	事	で	お	世	話	に	な	る	こ	と	が	あ	り	ま	す	。	こ	れ
か	ら	は	・	僕	た	ち	も	地	域	や	地	域	の	方	々	に	恩	返	し
を	し	て	い	き	た	い	と	思	い	ま	し	た	。						

20×20

7. 今後の課題

- (1) 福祉教育協力学区指定事業により、従来にもまして醸成された学校と地域との「協働」の精神を、今後いかに持続させて学校運営や地域の行事を考えてゆくかということに十分配慮すること。
- (2) 地域との協働事業については、一時的なものにとどめず福祉教育の観点から今後も積極的に取り組む必要があること。

8. 福祉教育協力学区事業を終了するにあたって

平成26年度からの3年間にわたって福祉教育協力学区事業として国田義務教育学校の総合的な学習の時間を活用するとともに、地域などとの協働活動を通じ、児童生徒が常に地域に根ざし、地域とともに活動し、地域に貢献するという福祉活動の姿勢を大きく打ち出すことができた。

また、この3年間に進めてきた福祉教育に関する様々な事業に対する取り組みを基礎としてさらなるステップに向かって生徒が自ら地域や学校に関する課題に取り組むとともに、郷土を愛する心をはぐくんで福祉教育の実践をさらに有効に進めたいと考えている。

3年間にわたり、本事業の推進に当たり、茨城県社会福祉協議会並びに水戸市社会福祉協議会の関係者の皆様には、大変お世話になりました。ここに感謝申し上げます。

【桜川市 真壁地区】

地域で取り組む福祉教育



【桜川市真壁福祉センター】



【ドラムカン風呂体験】



【救急救命講習】

社会福祉法人 桜川市社会福祉協議会

1 活動の目標

地域社会・学校・家庭が協働して、子どものときから社会福祉への理解と関心を高め、助け合い活動を育む教育を推進することを目的とする。

2 福祉推進協議会組織図

福祉教育推進協議会委員

No.	要 綱 組 織	所 属
1	区長	区長会
2	民生委員	民生委員児童委員協議会
3	高齢者クラブ	高齢者クラブ連合会
4	子ども会	子ども会育成連合会
5	ボランティア団体	ボランティア連絡協議会
6	消防署	筑西広域消防本部真壁分署
7	生涯学習課	教育委員会
8	事務局	桜川市社会福祉協議会真壁支所

3 実践活動内容

◆ 1 年次（平成 26 年度）

事	業 内 容 及 び 活 動 内 容
福祉教育 推進協議 会の設置	区長会、民生委員、高齢者クラブ連合会、子ども会育成連合会 筑西広域消防本部真壁分署、教育委員会(生涯学習課)との連携を 図るため、福祉教育推進協議会を設置した。
ぼうさい 探検隊の 実施	(防災マップづくり) ○ 実施日 平成 26 年 8 月 18 日 ○ 参加者 50 名(児童・保護者・推進員) ○ 目 的 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、 真壁小学校の児童が通学する市街地において、甚大な 被害があり、この教訓から付近の危険場所の探検調査 とマップづくりを実施した。 ○ 内 容 ・ 4 つの通学班ごとに児童、保護者、推進員が分かれ 危険箇所を発見し、手作りのマップの加除訂正を行 い、防災マップを完成した。 ・ 班ごとに防災マップの報告を行い、意見の交換がさ れた。
選択事業	(学校における総合学習との連携事業) 7 月 ○ 小学校における福祉体験事業において、車いす、アイマスク体 験を実施した。 (ジュニア・ボランティアスクール) 8 月 4 日・5 日 ○ 体験学習を通して、社会福祉やボランティア活動の理解を深め るとともに、思いやりの気持ちを育むことを目的として実施し た。 ・ 手話体験、インスタントシニア、車いす体験 ・ 地域活動支援センター通所生、デイサービス利用者との交流

◆ 2年次（平成27年度）

事	業 内 容 及 び 活 動 内 容
福祉教育推進協議会の設置	1年次に設置した福祉教育推進協議会及びボランティア団体、子ども会育成連合会と、1泊2日の事業実施に向けて綿密に協議した。
ぼうさい探検隊の実施	（ぼうさい探検事業） ○ 実施日 平成27年8月29日、30日 ○ 参加者 45名（児童・保護者・推進員・中学生ボランティア） ○ 目的 災害対策基本法に基づく、地域防災計画の定めるところにより「茨城県・桜川市総合防災訓練」が実施されました。この計画に合わせて、防災に対する意識を高めるため、1泊2日の日程で実施した。 ○ 内 容 ① 開所式 ② 茨城県・桜川市総合防災訓練の見学、体験 ③ ドラム缶風呂作り・ドラム缶風呂で入浴 ④ アルミ缶でご飯を炊こう ⑤ ダンボールハウス作り ⑥ 災害時の夜間移動訓練「往復50分の移動訓練」 ⑦ 救急救命講習「筑西広域消防本部真壁分署指導」 ⑧ 体験の記録 ⑨ 閉所式
選択事業	（学校における総合学習との連携事業） 7月 ○ 小学校における福祉体験事業において、車いす、インスタントシニア・手話体験を実施した。 （ジュニア・ボランティアスクール） 8月29日・30日 ○ 体験学習を通して、社会福祉やボランティア活動の理解を深めるとともに、思いやりの気持ちを育むことを目的として実施した。 ・ 車いす等体験、デイサービス、福祉センターの仕事

◆ 3年次（平成28年度）

事	業 内 容 及 び 活 動 内 容
福祉教育推進協議会の設置	福祉教育推進協議会及び関係団体と連携を図り、2年次事業を更に有意義な内容とするため協議した。 最終年となったが、今後も継続事業にすることについて、市生涯学習課、子ども会育成連合会役員と検討することとした。
ぼうさい探検隊の実施	（ぼうさい探検事業） ○ 実施日 平成28年8月20日、21日 ○ 参加者 70名（児童・保護者・推進員・中学生ボランティア 赤十字奉仕団・食生活改善推進員協議会） ○ 目 的 最終年は、より多くの地域の方と接する機会を設け、相互協力の大切さを理解してもらえることを目的とした。 ○ 内 容 ① 開所式 ② 竹で食器を作ろう ③ 炊き出し（非常食）体験「日赤奉仕団」 ④ ドラム缶風呂作り・ドラム缶風呂で入浴 ⑤ アルミ缶でご飯を炊こう・ダンボールハウス作り ⑥ 炊き出し体験「食生活改善推進員協議会」 ⑦ ボランティア活動「施設周辺清掃」 ⑧ 筑西消防本部見学 ⑨ 体験の記録 ⑩ 閉所式
選択事業	（学校における総合学習との連携事業） 1月 ○ 小学校における福祉体験事業において、車いす、インスタントシニア・手話体験を実施した。 （ジュニア・ボランティアスクール） 8月4日、5日 ○ 体験学習を通して、社会福祉やボランティア活動の理解を深めるとともに、思いやりの気持ちを育むことを目的として実施した。 ・ 手話体験、インスタントシニア、車いす ・ 消防士による救命講習会

4 主な活動内容



【桜川市の概要】

桜川市は首都圏から約70km圏内、茨城県の中西部に位置します。多くの湖沼を有し、水資源の確保および親水空間として活用されています。

また、この地域で採れるみかげ石を利用した石材業や、平野部の肥沃な土地を利用した農業など、地域資源を活用した地場の産業がいきづいています。

【桜川市の状況】

<基本情報>平成28年10月1日現在

面積 180.06km²

人口 43,829人

世帯数 15,326世帯

高齢化率 29.45%

自治会数 120自治会

<学 校 数>

小 学 校 11校（複式学級1校）

中 学 校 5校

高等学校 3校

※ 平成30年4月の開校をめざして、小学校2校と中学校1校を合わせて小中一貫教育校とするための事業が進められています。

対象地区〔真壁地区〕



真壁地区の街並

真壁地区の町割りは、戦国時代末期の真壁氏時代にかたちづけられ、江戸時代初期の浅野氏時代に完成したといわれています。

枳形と呼ばれる城下町特有の交差点が現存し、その町割りの中に、蔵や門などの歴史的建造物が息づいています。現在99棟が登録文化財となっています。

平成22年6月には、真壁地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。全国では87地区目、県内では初となります。

[平成26年度]

(1) 必須事業(1年目)

◆ 活動名 ぼうさい探検隊「防災マップづくり」

◇ 実施日 平成26年8月18日

◇ 場 所 桜川市真壁福祉センター

◇ 参加者 児童36名 その他14名

◇ 活動内容 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、真壁小学校の児童が通学する市街地において、甚大な被害がありました。この教訓から付近の危険場所を探検調査し、ぼうさいマップづくりを実施した。



危険箇所を確認



みんなでまとめ



班ごとに発表



完成したぼうさいマップ

[平成27年度]

(1) 必須事業（2年目）

◆ 活動名 ぼうさい探検隊「実践活動」

◇ 実施日 平成27年8月29日、30日

◇ 場 所 桜川市真壁福祉センター

◇ 参加者 児童25名 その他20名

◇ 活動内容 災害対策基本法に基づく地域防災計画の定めるところにより、「茨城県・桜川市総合防災訓練」が実施されました。この計画に合わせて、子ども会育成連合会と共催により防災探検事業を1泊2日の日程で実施した。



総合防災訓練



結団式



バケツリレー



ドラムカン風呂



アルミ缶でご飯を炊こう



夜間移動訓練



消防士による心肺蘇生指導

[平成28年度]

(1) 必須事業（3年目）

◆ 活動名 ぼうさい探検隊「実践活動」

◇ 実施日 平成28年8月20日、21日

◇ 場 所 桜川市真壁福祉センター

◇ 参加者 児童36名 その他34名

◇ 活動内容 昨年度の防災探検事業の10日後に台風18号の影響により、鬼怒川が決壊し、周辺住民のみなさんが大変な被害に遭われました。4年前には竜巻によりつくば市が、桜川市の一部が被害を受けており、いつ、どこで、何の災害が発生してもおかしくない環境となっていることから、今後の事業継続を見据え実施した。



開所式



ダンボールハウス



竹で食器をつくろう





ボランティア「赤十字奉仕団」



「食生活改善推進員協議会」



過去に発生した地震の体験



筑西消防本部見学



筑西消防本部見学



5 各学校における福祉体験事業の取り組み

桜川市人材育成福祉体験事業指定校 17校



＜主な取り組み＞

- ・施設訪問
- ・地域高齢者との交流
- ・施設訪・地域高齢者との交流
- ・車いす・インスタントシニア体験
- ・ボランティア清掃活動
- ・リサイクル運動
- ・緑化運動



福祉センターデイサービス訪問



学校体育館での車いす体験



アイマスク・白杖の使い方体験



デイサービスの仕事

◎ ジュニア・ボランティアスクール

【小学生対象、夏休み期間を利用したの2日間のスクール】

子どもたちが体験学習を通して、社会福祉やボランティア活動の理解を深めるとともに、相手の立場や気持ちを考えられるよう 思いやりの心を育てていくことを目的とする。

《平成26年度事業》

- ◇ 開催日 平成26年8月4日、5日
- ◇ 開催場所 岩瀬福祉センター
- ◇ 参加人数 45名
- ◇ 内 容
 - ・ 介護老人ホーム訪問
 - ・ 手話、車いす、インスタントシニア
 - ・ 障害者、高齢者との交流

《平成27年度事業》

- ◇ 開催日 平成27年8月29日、30日
- ◇ 開催場所 真壁福祉センター
- ◇ 参加人数 25名
- ◇ 内 容
 - ・ 福祉センターの役割
 - ・ 手話、車いす、インスタントシニア

《平成28年度事業》

- ◇ 開催日 平成28年8月4日、5日
- ◇ 開催場所 岩瀬福祉センター
- ◇ 参加人数 35名
- ◇ 内 容
 - ・ 障害者、高齢者との交流
 - ・ 手話、車いす、インスタントシニア
 - ・ 消防士による救命講座



手話を体験してみよう



救急救命講座

6 この経験を 地域で取り組む福祉教育 に生かすために

自然災害が頻発する環境の中、非常時における生活を経験することで、防災に対する関心や知識の向上を図ることができました。また普段の生活とは違う体験活動の中で、人と人の関わりや自分の生活を見直すきっかけとなり、相手を思いやる福祉教育にも繋がり、保護者からも大きな反響をいただきました。今後も本事業を継承し、リーダーの育成、将来の人づくりに寄与できる活動を、地域で行い行ければと思います。

桜川市子ども会育成連合会

福祉教育協力学区指定事業を実施した真壁地区は、真壁・紫尾・谷貝・樺穂地区と小学校単位で地域区分がされています。それぞれに分館祭と呼ばれる子どもや保護者、高齢者の交流事業が行われているほか、行政区ごとに3世代の集い事業が盛んに行われるなど一体感のある地域性です。しかし少子化の波は止まることなく、今後数年の間には小学校が統廃合される計画も進められおり、地域の環境もますます変化して行くことになると思われますが、これまで培われてきた地域のつながりを継承し、更に学校、行政、地域、ボランティアなど、協働による福祉教育を推進できるよう取り組んで行きたいと思っています。

桜川市社会福祉協議会真壁支所

7 成果と今後の課題（3年間の事業をとおして）

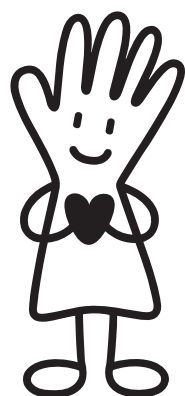
（1）事業の成果

災害を想定した共同生活を通じて、地域間、世代間の交流が図られ、共通の目的に取り組むことによって、思いやりの心、感謝の気持ちが育まれた。

災害時の救助活動や、ボランティア活動を目にして、助け合いの大切さを学ぶことができた。

（2）今後の課題（これからの取り組み）

継続的な活動、協働による福祉教育を推進できるよう取り組んで行きたいと思っています。



はんどちゃん

福祉教育協力学区指定事業活動報告書

第9期指定 平成26年度～平成28年度



社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内

TEL：029-241-1133(代) FAX：029-241-1434